

IMPLEMENTATION MANUAL

WHO SURGICAL SAFETY

CHECKLIST (FIRST EDITION)

SAFE SURGERY SAVES LIVES

1. WHO が 2008 年 5 月に発表した手術安全の手順についてのマニュアル
2. これが手術安全の世界標準になると思われる
3. 安全な手術が命を救う
4. 適切な麻酔の安全管理、手術感染防止および手術室のコミュニケーションを円滑に保つことによって手術安全を確保する

構成

手術を 3 つの時間的フェーズに分ける

1. 麻酔導入前（サインイン）
2. 導入後と皮膚切開前（タイムアウト）
3. 閉創中または直後であるが患者が退室しないフェーズ（サインアウト）

青字は“県立病院外科手術チームのための確認事項”で追加された項目

手術時安全チェックリスト

I 手術前

- ① 手術担当チームで担当手術の予想される重大事象について情報共有を行う
情報共有が必要な手術の内容を明らかにする
- ② 患者のリスクを麻酔科医が確認
薬剤アレルギーの有無
挿管リスクの有無
輸血準備の有無
- ③ 執刀医が左右の明示が必要な手術についてマーキングまたは明示をする

麻酔導入前

サインイン

患者確認がなされている

- ・ I D
- ・ 部位
- ・ 手術法
- ・ 同意

部位のマーキング／適応されない

麻酔安全チェックは済んでいる

パルスオキシメーターは患者に装着され、作動している

患者には以下のものがある：

アレルギーは？

いいえ

はい

気道確保が困難／誤嚥のリスクは？

いいえ

はい、そして器材／援助は利用可能である

500 mL以上の出血のリスクは(小児では7 mL/kg)？

いいえ

はい、そして十分な静脈路確保と輸液が計画されている

画像データが患者のものであるか看護師が確認する

皮膚切開の前

タイムアウト

全てのチームメンバーが名前と役割を自己紹介したことを確認する

術者、麻酔専門医そして看護師が言葉で確認する（現状は術者が言葉で言っているが麻酔科医、看護師も言葉でいう）

- ・患者
- ・部位
- ・手術法

予想される極めて重要なイベント

術者の評価：極めて重要あるいは予期しない手順、手術時間、予想出血量？

麻酔チームの評価：患者に特有な問題点？

看護チームの評価：(インジケータの結果を含む)滅菌は確認されたか？

器材問題もしくは懸案事項はありますか？

抗菌薬予防投与は直近 60 分以内に行われたか？

はい

適応ではない

必要な画像は提示されているか？

はい

適応ではない

タイムアウト時間を看護師がカルテに記載

IV. 皮膚縫合前

① 看護師は必要事項を述べる

ガーゼの枚数一致

器具の本数一致

検体内容と患者の名前

患者が手術室を出る前に

サインアウト

看護師はチームに口頭で以下を確認する：

- 手術式名は記録された
 - 器具、ガーゼ（スポンジ）、及び針の数は正しい(あるいは適用でない)
 - 標本のラベルの貼り方(患者の名前を含めて)
 - 器材問題があるかどうか
 - 術者、麻酔科専門医そして看護師がこの患者の回復および管理について、
鍵になる問題を評価する
- 麻酔科医は患者退室基準を満たしているか確認する